

埋文

とやま

Toyama Prefectural Center for Archaeological Operations

2021.3.31

VOL.

154



小竹貝塚出土品（富山市呉羽）

《貝輪》

小竹貝塚から出土した縄文時代の貝輪です。「貝輪」とは、直径6～8cmの大型の貝殻に直径5～7cmの穴を開けて作られたアクセサリーで、プレスレットのように腕に着けます。縄文人のおしゃれ心をうかがうことができます。材料の貝殻は遠く離れた南の海に生息するものもあり、縄文人の交易を物語るものとして注目されています。

とっておき埋文講座 ● 試掘調査の成果

● 縄文時代のお魚事情

埋文あらかると ● とやまの古代生産遺跡等出土品

Center Flash ● 催しガイド 2021

古写真発掘! ● 立野原監的塚（南砺市指定史跡） 南砺市立野原

富山県埋蔵文化財センター

試掘調査の成果 —富山市内のほ場整備事業の前 5遺跡を調査—

発掘調査最前線

米食

大陸から日本列島に米作りが持たらされたのは、今から約2000年前のことです。

狩猟をなりわいとする生活から米を主食にする生活へと、日本人の生活スタイルは一変しました。米を作ることは田を耕し水源を確保しなければなりません。そのためにはその地域に根をおろし生活を営む、いわば定住型社会へと移行していったと言えます。米はご飯として食べますが、酒・餅・麺や菓子などに加工することもでき、日本人の食文化は米に原点があると言っても過言ではありません。また米は備蓄可能なことから古くからお金と同等の価値があるものとされてきました。農民は税を米で納めていましたし、武士の給料も米で支払われていました。加賀100万石と言われるように各藩の規模は石高で表されていました。米は換金ができるので石高は藩の財政力、強いては藩の上下関係を示すバロメーターとされていました。まさに米には偉大な力がありました。

農地整備

私たち日本人は、病害に強く美味しくて良質な米が大量に収穫できるよう品種改良を繰り返すとともに、土壌を改良し自然災害にも強く、効率よく農作業できるよう、水田の整備にこの2000年間全力を注いできました。

今もその精神は引き継がれています。事実、富山県は平成27年度から、稲作の小コスト、高収入化に向けた新

たなほ場整備事業を始め、富山市内では平成28年から取組んでいます。

ほ場整備事業には地盤の切り盛りが伴うことから、時に日本歴史や郷土史、歴史教育に不可欠な貴重な遺跡を破壊する要因になることがあります。皮肉なことに歴史ある米作りが、遺跡を破壊する要因を作ることになるのです。



試掘溝を精査する様子

埋蔵文化財包蔵地

富山市水橋地区の荒町・辻ヶ堂遺跡、小出遺跡、浜黒崎地区の悪地遺跡、飯田遺跡、町畑遺跡の5遺跡を試掘調査しました。



全国遺跡地図(富山県) 1/75,000
文化財保護委員会 昭和40年3月

では、今回の試掘調査の対象となった遺跡はどのようにして周知されたのか、関連する遺跡も含めてその経歴を見てみましょう。

まず、富山県内に点在する遺跡や遺物を考古学的に初めて取りまとめたのは、早川荘作でした。大正15年に著した『越中石器時代民族遺跡遺物』の口絵に越中石器時代遺跡分布図と称して37箇所をドットした分布図を載せ紹介しました。その図には平榎遺跡があります。森秀雄は昭和26年に著した『大昔の富山県』の中で『富山縣石器時代遺跡地名表』を載せ208遺跡を紹介しています。上条村小出遺跡(縄文時代、土器、石器)、富山市浜黒崎野田遺跡(縄文時代、土器、石斧、石



試掘調査を実施した5遺跡



富山市遺跡地図 1/10,000
富山市教育委員会 平成25年3月

鏃)、平榎遺跡（縄文時代、土器、石斧、石錘）を載せています。

文化庁の前身である文化財保護委員会が昭和40年3月に刊行した「全国遺跡地図」富山県版では705遺跡が登録されています。富山県教育委員会が昭和47年3月に初めて編纂発行した「富山県遺跡地図」では1176遺跡が登録されており、7年間で471遺跡が増えたことがうかがえます。野田遺跡（縄文と弥生）、平榎遺跡（縄文）、小出遺跡は小出城（室町）として登録されています。上記の3遺跡は古くから周知されていたことが分かります。

富山市教育委員会が市内全域を分布調査し昭和51年3月に刊行した市内遺跡地図では、遺跡の広がりから野田遺跡と平榎遺跡を野田・平榎遺跡（縄文から近世）と1つの遺跡に、また昭和47年で小出城としていた箇所を小出遺跡に、小出神社周辺を新たに小出城跡として登録しました。画期的なことに、埋蔵文化財包蔵地を従来のような点ではなく正確に範囲を把握できるようにと包蔵地を線で囲む方式で掲載しています。また他の市町でも分布調査が始まったのはこの頃です。平成5年に市の遺跡地図は改正され、今回試掘調査をした遺跡はこの時に登録されたものです。

成果

約27haの調査区に311本の試掘溝を設定し、埋蔵文化財の状況を確認しました。顕著な成果のあった3箇所について紹介します。



浜黒崎町畑遺跡 切合う2基の井戸の状況

・浜黒崎飯田遺跡

浜黒崎集落の南半分を範囲とする古代～中近世の遺跡です。この集落の南端に設置したNo.47試掘溝で重なり合う2棟の古代の竪穴住居を確認しました。灰黄褐色の地山面に土師器、須恵器を含む黒褐色土で覆われた方形遺構が現れました。掘り下げると床面に低位な段差が認められたことや、断面観察から黒褐色土の切合いが認められたことから、2棟の竪穴住居が重なり合っていると判断しました。試掘溝の幅が1.2mと狭小なため全貌は不明です。



浜黒崎飯田遺跡 確認した竪穴住居の状況

・浜黒崎町畑遺跡

浜黒崎集落の北側水田から近世北陸道を含む範囲の古代の遺跡です。No.8試掘溝で切合う2基の中世の井戸を確認しました。黄褐色の地山面に黒褐色の瓢箪形をした遺構を確認し掘り進めると、直径1.3mと1m(推定)の円形の素掘り井戸であることが分かりました。深さは70cmで底面の標高は1.9mでした。井戸から海岸線までが300m程と近いので砂層地質で塩水とと思っていましたが、粘土質の地層で湧き出る水も真水でした。この地区で9基の井戸を確認しましたが、井戸のすぐ脇に新しい井戸を掘るなどよっぽど美味しい水が湧いたのでしょう。

・水橋小出遺跡

白岩川の下流右岸にあって越後上杉からの防御にあっていた小出城の東一帯に広がる古代～中世の遺跡です。No.252-1試掘溝で弥生時代の竪穴住居を確認しました。試掘溝の半分が黒褐色土で、掘り下げると弥生土器が重なって出土することや断面観察から竪穴住居と判断しました。昨年度調査でも弥生時代の竪穴住居を数棟確認しているため、当時ここに弥生時代の集落が営まれていたことがうかがえます。



水橋小出遺跡 竪穴住居内の弥生土器

責務

調査区は古代の岩瀬駅と水橋駅に挟まれた地域であり、古代北陸道や官道、駅に関連する建物、街道脇の集落等の遺構をひそかに狙ってはいたのですが…。また弥生人たちも、3000m級の峰々が連なる立山連峰を見ながら、米作りに精を出していたと思うと、遺跡も保護し、美味しい富山米が多く収穫できる水田作りにも協力しなければと、夕日に照らされた赤き劔岳を見ながら感じました。

(安念 幹倫)



小出遺跡での調査風景と劔岳

縄文時代のお魚事情

とっておき埋文講座

魚津水族館 館長 稲村 修 学芸員 不破 光大

はじめに

魚津水族館は富山県唯一の水族館として富山の水生生物を調査研究し、展示等を行っています。先日、旧知である河西健二所長から「小竹貝塚からたくさんの魚類の遺物が出ているが、現生の富山湾の魚と比べてどうなの?」ということで、講演の依頼がありました。

そこで、令和2年10月15日の第33回全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会研修会では、「小竹貝塚出土の魚類遺存体からみえること」と題して不破がお話しました。また、11月8日には「縄文時代のお魚事情」という河西所長からいただいた題で稲村が一般講演をさせていただきました。

講演等に用いた資料は「公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所（2014）小竹貝塚発掘調査報告－北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告X－第二分冊．自然科学分析編」で、「18脊椎動物遺存体」の「(2)魚類：P228－233」です。

報告書では小竹貝塚の特徴を「ヤマトシジミ主体の二枚貝類が大量に廃棄され、貝層の厚さ2m超の日本海側最大級の貝塚」としています。魚類の遺存体としては、歯、骨、棘等の硬組織が出土しています。大きいものは肉眼で確認し、小さいものはフルイ（網目：5、4、2.5、1mm）で採取されました。出土総数29,682点中の17,654点で、魚の種類が同定されています。

分類について

出土の魚類遺存体は種まで特定されている魚が多いのですが、亜綱や科名、属名までのものもあります。魚類の分類は生物分類体系に則り、原則として「界・門・綱・目・科・属・種」の順に分けられますが、これらのほかに「亜綱・亜目・上科・亜科・亜属・亜種」等の中間的な分類群もあります。

魚類を含む動物の名前は国際動物命名規約に則って、世界で一つだけの学名が付けられています。その他に日本では和名がありますが、図鑑等多くの場面で使われるのは標準和名で、各地方での呼び名は地方名とか方言名とされます。さらに、成長によって名前が変わる出世魚の例もあります。

さて、分類体系をマダイの例で表すと以下ようになります。

界：動物界 Animalia
門：脊索動物門 Chordata
亜門：脊椎動物亜門 Vertebrata
綱：条鰭綱 Actinopterygii
目：スズキ目 perciformes
科：タイ科 Sparidae
亜科：マダイ亜科 Pagrinae
属：マダイ属 pagrus
種：マダイ *Pagrus major*
(Temminck et Schlegel, 1843)
標準和名：マダイ 地方名：アカダイ
英名：Red seabream

小竹貝塚から出土した魚類

小竹貝塚から出土した魚類遺存体（17,628個）の分類割合について報告書では「①スズキ属（17%）②クロダイ属（16%）③マダイ（7%）④タイ科（13%）⑤フナ属（8%）⑥コイ科（11%）⑦サケ科（5%）⑧エイ・サメ類（5%）⑨ニシン科（5%）⑩カタクチイワシ（1%）⑪フグ科（4%）⑫アジ科（1%）⑬サバ属（3%）⑭その他（4%）」としています。ここで挙げられた魚類について、現在の富山の淡水魚相や富山湾の魚類相を加味して検討しました。

①スズキ属



スズキ

現在の富山湾ではスズキが多く、沿岸海域のみならず、河口や河川下流域を好むことから、汽水域が広がる小竹貝塚周辺でもスズキが多く捕獲された。

②クロダイ属

現在の富山湾沿岸海域にはクロダイが多く、河川内にも進入する。小竹貝塚周辺には汽水域が広がり、多くのクロダイが捕獲された。

③マダイ

スズキやクロダイと異なり、やや深場に多いことから、沖目の海域で舟を使って漁獲していたのだろう。

④タイ科

クロダイ、マダイ以外のタイ科ではクロダイ属、マダイ、チダイが記されている。考えられるのはキダイ、ヘダイくらいだが両種とも少なく、どの種なのか疑問が残る。

⑤フナ属

富山県に多く生息しているギンブナと思われる。

⑥コイ科

現在はユーラシア大陸から導入された「コイ飼育型」が全国的に分布し、日本在来の「コイ野生型」は富山で確認されていない。出土品はコイ野生型と推測され、縄文時代に富山県に生息していた証拠となり大変興味深い。

ほかにウグイ属のウグイとジユウサンウグイ（旧名マルタ）や、タナゴ類ではミナミアカヒレタビラ、ヤリタナゴのほか、かつて放生津湍に生息していたイタセンパラがある。その他は、在来種であるタモロコ、モツゴ、アブラハヤ、タカハヤ等の小型コイ科魚類とみるのが妥当である。

⑦サケ科



ヤマメ

椎体が大型のサケ属が出土しており、サケやサクラマスであろう。また、報告では「大型のサケ属以外にアマゴ（サツキマス河川残留型）やイワナが含まれる」とあるが、アマゴの分布域でないことからヤマメ（サクラマス河川残留型）と考えられる。

⑧エイ・サメ類

現在、トビエイ（上）科は南方系のトビエイとイトマキエイの記録はあるが珍しい。ネズミザメ科は定置網などでホホジロザメ、ネズミザメ、アオザメが捕獲される。しかし、歯が鋭く、力が強いサメ類を釣るには強力な針と糸が必要で、当時の漁具が気になる。

⑨ニシン科

富山湾のニシン科にはマイワシ以外で、ウルメイワシ、サッパ、ニシン、コノシロが知られる。ウルメイワシは春先に捕れるが比較的沖合である。一方、コノシロは、沿岸海域や河口・河川下流域で、大きな群れになって表層近くを泳ぐので小竹貝塚周辺にはたくさんいたはずである。

⑩カタクチイワシ

沿岸海域に多く生息し、大きな群れを成す。群れで海岸に打ち上がることもある。

⑪フグ科

フグ科は富山湾では19種が知られ、沿岸域に生息するシヨウサイフグ、クサフグ、コモンフグ、マフグ、ヒガンフグ等は簡単に入手できたであろう。ただ、これらフグ類の筋肉以外は有毒なので、死亡した人もいたであろう。

⑫アジ科

ブリ属（ブリ、ヒラマサ、カンパチ、ヒレナガカンパチ）以外に、多くのアジ科魚類（マアジ、マルアジ、メアジ、ツムブリ等）がいる。マアジは沿岸海域にたくさんいたはずである。

⑬サバ属

富山湾では主に冬から春がマサバ、冬にゴマサバで、マサバが多い。足がはやいので傷みやすく、体質により中毒になる。

遺存体の出土数が少ない魚類

遺存体として出土しているものの、現在の魚類の状況から考えると量が少なく思える魚種として、「トゲウオ科、ボラ科、コチ科、ブリ属（アジ科）、インダイ属（インダイ科）、ソウダガ

ツオ属（サバ科）、マグロ属（サバ科）、カレイ科、カワハギ科」があります。

これらの中で、例えばボラ科を取り上げると、富山湾ではボラ、メナダ、セスジボラの3種が生息していますが、セスジボラは稀で、ボラとメナダは淡水・汽水・沿岸海域に大量に生息しています。小竹貝塚周辺にいたはずで、大きさも50cm以上になる魚なのに、大量に出土しないのは不思議です。ちなみに現在、富山県ではあまり食用とされませんが、石川県ではこれを捕獲する漁が知られています。

また、アジ科ブリ属のブリ、ヒラマサ、カンパチですが、中でもブリは富山湾を代表する海の幸です。秋には若魚であるツバイソ（コズクラ）、フクラギ、ハマチ（ガンド）が大量に漁獲され、大型のブリは冬に漁獲されています。これらの出土が少ないのは不思議で、「当時は少なかった」とか、「冬は漁ができなかった」とか、どのような理由があったのか気になるところです。

さらにカレイ科魚類は富山湾で18種の記録があり、沿岸海域ではマコガレイ、マガレイ、メイタガレイ、イシガレイが多く、当時も浅場の砂地に多くいたはずなのですが、出土しないのは不思議です。

魚類遺存体の種名表を見て 思うこと

小竹貝塚で出土した魚類を考察していて、心に浮かんだ疑問です。

1) 当時の環境は？（温暖化：気温、水温、川の流れ、海流等）

これに関連して、「現在、なぜ富山でヤマトシジミが捕れないのか」という疑問が出てきた。現在のヤマトシジミの生産地は日本各地にあり、温暖化の影響ではなくて、汽水湖が無くなったことが主因と考えられる。

2) どうやって捕まえていた？（手づかみ、釣り、網漁等）

出土した魚種から採集方法を想像してみた。河川では釣りやカゴ等を用いて捕獲。夏期なら、潜水してヤスで突くとか、川の瀬替えをしたかも。沿岸海域では潜水して銚で突くとか、釣り（釣針は出土）のほかに、丸木舟で沖に出て釣っていた。これら漁法で使われた針、糸、網、餌等に興味が湧きたてられる。

3) どうやって食べたのだろうか？（生食、焼き物、煮物、干物等）

明確な証拠はないが、焼いたり煮たりしたことは想像に難くない。当時、塩は入手可能と考えられるので、現在の東南アジアの状況から推測すると、干物のほかに、魚の塩漬けを作り、発酵させて魚醤を作った可能性もあり、うまい煮魚であったかもしれない。

なぜか、小竹貝塚から 出土しない魚

現在は身近にいるのに、小竹貝塚から出土記録のない魚をいくつか紹介します。

まず淡水魚では、カンキョウカジカやアユカケというカジカ類は、神通川下流域にいたはずですが。またドジョウはカゴ漁でフナ類と一緒に捕れたと思います。そしてハゼ類のマハゼは、川でも海でもたくさんいたはずですが。

海水魚では、浅い沿岸海域の砂地に多いシロギスやアカエイは、河口周辺にも多くいたと思います。アカエイの尾にある毒針は鋭く、銚の先に使えそうですが、出土していません。また、沿岸の岩礁域にはメジナやカサゴがたくさんいたはずなのに、出土していないことも不思議です。



アカエイ

おわりに

以上のように、小竹貝塚から出土した魚類の遺存体を、現生の富山湾の魚類相をもとに考察してみました。当時の魚類相や生存量が現在と異なるのか、どのように漁獲していたのかなど、新たな疑問が多く出てきました。これは、今後の楽しみとしておきます。

(令和2年11月8日)

第4回 県民考古学講座)

埋文 あらがると

刊行! 富山県出土の重要考古資料第13集 とやまの古代生産遺跡等出土品

当センターは、平成19年度から、富山県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として「富山県出土の重要考古資料」を12冊刊行してきました。今回は第13集として、古代の生産遺跡等の出土品を紹介します。

現在、古代の生産遺跡は発掘調査等で約80遺跡が確認されていますが、このうち土器編年の基準となる資料など、重要度の高い8遺跡199点の出土品を選定しています。

特に、射水市の小杉流通業務団地内遺跡群では、人々の生活に欠かせない須恵器の食器をはじめ、寺などに供給するための瓦や、祭祀に使ったと思われる鳥形や土馬などさまざまな種類の遺物がみられます。

本書が富山県の貴重な文化財に興味を持つきっかけとなり、より関心を深めていただければ幸いです。



安居窯跡群出土品



小杉丸山遺跡出土品



小杉流団群No. 16 遺跡出土品

展示室

企画展

「見て、知って!とやまヒストリー 2021」

令和3年4月16日(金)～9月26日(日)

富山県の旧石器時代から近現代までの通史について、県内各地で発掘調査された出土品を通して分かりやすく紹介します。

展示を見て、楽しく歴史を学びましょう。社会科の学習にもご活用ください。



接合資料【直坂I遺跡】

特別展

「珠・玉・球 — 私たちを魅了する たま とは —」

令和3年10月8日(金)～令和4年1月27日(木)

「たま」は、縄文時代から古墳時代に至る7,000年間にわたって、富山県の特産品でした。縄文時代～古墳時代の玉づくりに関係する資料をはじめとした富山県の「たま」の歴史を紹介だけでなく、私たちが魅了してきた「たま」を展示し、「たま」の魅力に迫ります。



玉類【江上A遺跡】

ミニ企画「春の虫干し展」

— 重要文化財の風通し —

令和4年2月5日(土)～4月3日(日)

当センターが所蔵する国重要文化財「境A遺跡出土品」や登録有形文化財などの定期点検を兼ねて、風通しの様子を公開するものです。ヒスイの玉や土器、石斧を毎年少しずつ展示します。どれが出るかは楽しみです。



縄文土器【境A遺跡】

収蔵 展示室

常設展示「小竹貝塚展」

令和3年4月16日(金)～令和4年4月3日(日)

日本海側最大級の貝塚であり、91体の埋葬人骨が出土した小竹貝塚の出土品を展示しています。併せて、平成30年度から開始した「小竹貝塚調査研究プロジェクト」の最新成果を展示し、より興味をもっていただきます。



骨角器【小竹貝塚】

富山ヒストリーチャレンジアップ事業

令和3年度から富山ヒストリーチャレンジアップ事業としてさらに充実した考古学イベントを開催します。

■ 県民考古学講座

考古学に関する最新の研究成果や近年の注目された発掘調査成果など、著名な講師や県内及び当センターの専門職員が、わかりやすく解説する講座です。令和3年度は、7月より全6回の開催を予定しています。

■ 出前授業・出前埋文センター

学校や地域の施設に本物の出土品を持参して、地域の遺跡や歴史について解説したり、火起しやまが玉づくりの活動を体験したりします。詳細は、お問い合わせください。

■ 体験教室の開催

- おとなも体験できる考古学体験教室を開催します。
- 開催日：年12回程度
 - 定員：各回20名程度
 - 対象：小学生～成人
- ※詳細は、HP等でお知らせします。

■ 考古学体験教室

親子で楽しく学ぶ考古学教室です。まが玉づくりやガラス玉づくりなどの古代体験を通して、先人の知恵や技を習得します。

- 開催日：7月下旬～9月上旬
 - 対象：小学校4～6年生とその保護者
- ※詳細は6月に小学校に配布するチラシでお知らせします。

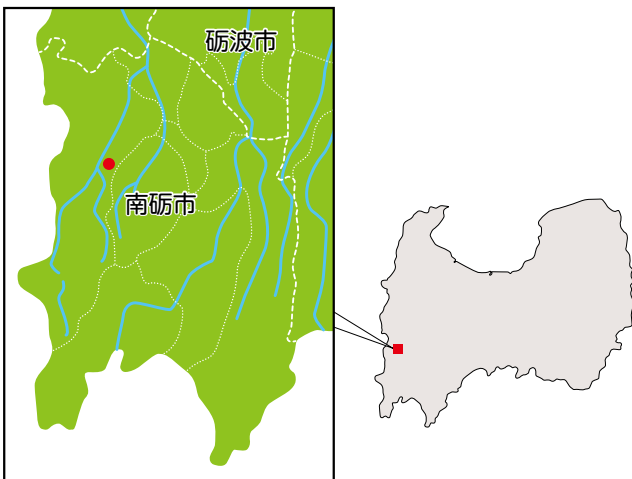
■ こども考古学講座

- 小中学生を対象とした考古学講座の開催
- 開催日：夏休み期間中(3回開催)
 - 対象：小中学生

■ 考古学少年団

- ちょっと専門的に、とやまの古代について学ぶ講座です。
- 開催日：通年(8回程度開催)
 - 対象：小学校6年生～中学生
- ※こども考古学講座・考古学少年団についての詳細は、チラシやHPでお知らせします。

古写真発掘!—《8》



たてのがはらかんてきこう

立野原監的壕（南砺市指定史跡）

昭和48年（1973年）撮影

南砺市立野原

旧城端町と旧福光町にわたって広がる立野ヶ原台地には、100箇所を超える多くの遺跡があり、昭和47年（1972年）～昭和52年（1977年）にかけて「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」という大規模な農地整備事業を原因として発掘調査を行いました。

立野ヶ原台地には、明治時代に陸軍演習場が整備され、写真の監的壕が作られました。監的壕とは「砲弾の命中率や性能などを近くで観察するための施設」（南砺市HPより）です。この監的壕からほど近い旧城端町にももう一つあり、写真のものは「目玉監的壕」、旧城端町のものは「丸山監的壕」と呼ばれています。どちらも平成26年（2014年）に南砺市指定史跡に指定されました。

写真の「目玉監的壕」は、立野ヶ原遺跡群の中の大西遺跡の近くにあり、昭和48年の第二次発掘調査の際に撮影したようです。作業員の皆さんが監的壕の上に登って記念撮影しているところからも、監的壕に対する地元の方の思いが伝わります。

編集後記

今年の冬はセンター周辺も大雪に見舞われました。暖かな春の訪れに心が浮き立ちます。さて、当センターでは、4月から行われる企画展に向けて準備を進めています。ご来館をお待ちしています。（担当 松嶋）

富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」VOL.154

令和3年3月31日発行 編集／富山県埋蔵文化財センター 〒930-0115 富山市茶屋町206-3 TEL076-434-2814

URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/maibun/>

